

こども黨列傳

石井庄司

はしがき

新しい辭書にも「こども黨」といふ言葉は、まだ載つてゐないやうである。しかし日常の生活語としては、相當行はれてゐるやうに思ふ。「誰々さんは仲々のこども黨だ」とか「こども黨の誰々さん」といつた具合に。

さて「こども黨」とは何か。

「こども」の味方、「こども」の氣持のわかる人、さては「こども」の世界に光明を齎らす人——みな「こども黨」である。また「こども」のために心を悩ます人、「こども」のために苦しむ人、これまた「こども黨」といふことが出来る。我が國には、古來、孝子の美談が多い。しかし「こども黨」のこどもは、餘り多く傳へられてゐない。なぜか知らぬがとにかく残念に思ふところである。そこでこの年頃古い典籍を讀過する際に、さういふ「こども黨」のこどもに注意してきた。

尤も餘り新しいものではなく、先刻御存知のものばかりである。しかし成るべく、根本の資料によつて記してみたいと思ふ。大方の御叱正を賜らば幸甚に存する次第である。(昭和十二年四月)

(一) 小子部 螺羸ちひきべのすがる

螺羸のこどもは日本書紀、雄略天皇の六年の條に見えてゐる。雄略天皇の六年は皇紀一二二の年で、今から凡そ一千

四百七十五年前のこゝである。天皇は后妃をして親ら桑をこいて蠶を飼はしめようと思召された。そこで螺贏に命じて國內の蠶を聚集せしめられた。ところが螺贏は誤つて、人間の嬰兒を多勢集めてきた。それを天皇に奉獻した。天皇はそれを見て、大いにお笑ひになつて、「汝自ら養ふべし」にて嬰兒をその儘螺贏にお與へになつた。螺贏はその嬰兒を宮牆のほりりで養つた。よつて姓を賜つて小子部連と呼んだといふのである。

螺贏はさういふ身分の人が、書紀には何も記してゐないが、日本國現報善惡靈異記卷上の第一段に螺贏のこゝが出てゐて、その中では天皇の「隨身肺腑の侍者」であるといふ。日本書紀や靈異記による「膂力人に過ぎ」雷を捉へてきたといふ。

小子部の部長として、多くの子供を預るころの螺贏がそんなに強い人であつたといふことは面白いことではなからうか。

なほ小子部のこゝに就ては古事記上巻に「神八井耳命は、小子部連の祖なり」とある。意富臣なごゝ同祖である。姓氏錄、左京皇別に小子部宿禰といふのが見える。これは多朝臣おほのと同祖で、神八井耳命の後なりといふ。「大初瀬幼武天皇即ち雄略天皇の御代に、諸國に遣はされて蠶兒を收斂あつめたころ、誤つて小兒を聚めたので、天皇いたく晒わつて姓を小兒部連と賜つた」とある。これは書紀の記事と符合するわけである。

姓氏錄に小子部宿禰とあるのは、天武天皇の十三年十二月戊寅朔己卯、小子部連に姓を賜ひて宿禰といふとあるによつて明かであらう。しかし同じく姓氏錄では、和泉國皇別には小子部連といふのが見え、同じく神八井耳命の後なりとあるから、同氏族に、宿禰と連とあつたのであらう。

天武紀にも、「尾張國司小子部連鉏鉤」といふのが見え、嵯峨紀には「武藏人正六位下小子部宿禰身成」といふのがあり、仁明紀にも從五位下小子部連諸主あり、吏部王紀にも醍醐天皇の時に小子百雄といふ人の事が見えてゐる。後には「部」の字を省いてゐたやうである。小子部は雄略天皇の御代にはじまり、世々地方官として活躍したものゝやうである。ところが最

近或學者は、神樂歌の「大官の小子舍人……」とある言葉を證して、小子は侏儒のことであらうといひ、また支那なごにあつた弄臣といふやうに説いて居られるが、如何であらうか。螺贏が與へられた數多くの子供を如何様にして育て、行つたか、その邊のことは傳へてゐないが、多勢の子供たちに取圍まれてゐたであらうと思はれる小子部螺贏は、まづ第一番に吾々の「こごも黨」の一人を考へたいのである。

奈良縣磯城郡多村大字多には、神八井耳命を祀る縣社多神社があり、その南には洵にさゝやかな祠ではあるが、古事記の撰進者である多朝臣安麿が祀られてある。その多神社から西十町程のこころ平野村大字飯高といふに螺贏神社及子部神社といふのがある。一昨年來、地元の奈良縣童話聯盟では育児の神として祭典を行つてゐるやうである。

雜誌

〔保育〕の創刊

大阪毎日新聞社會事業園内の全日本保育聯盟で雜誌〔保育〕を發刊されました。

四月が創刊號で内容の豊かな雜誌であります。御紹介致します。

（編輯部）